

緩和ケアを通じてみる作業療法の世界

特集にあたって

緩和ケアは対象者とその家族のトータルペイン（身体的苦痛，精神的苦痛，社会的苦痛，スピリチュアルペイン）の予防，緩和を図り，QOL 向上を図るためのアプローチをいう。すなわち，緩和ケアとは特定の療法を示すものではなく，症状管理だけを指すものでも，終末期に限った概念でもない。

緩和ケア対象の代表的な疾患である「がん」は，わが国では2人に1人がかかり，高齢化とともに罹患率は年々増加傾向にある。そのため，対象者の療養先も一般病院のみならず，療養型病院や在宅，高齢者施設にも及ぶ。精神科病院に入院中のがんを患う患者も増加しており，緩和ケアは，もはや一般病院だけで求められるものではなくなっている。

また，がんの患者のみならず，近年はがん以外の疾患（非がん）に対する緩和ケアも注目されるようになってきた。難病や認知症，呼吸器疾患，心疾患等，その範囲が作業療法の対象とする疾患に広まりをみせている中で，われわれ OT は領域を問わず「緩和ケア」という概念を正しく理解し，緩和ケアという視点からも作業療法をとらえることが重要である。

各領域の作業療法の実践を，緩和ケアという視点からみることで何がみえてくるのか。各領域で働く作業療法の実践を緩和ケアという視点から振り返ることで，作業療法の意義・役割についてこれまでと少し違う視点から再考する機会となれば幸いである。

（島崎寛将）

企画担当

島崎寛将（大阪国際がんセンター，作業療法士）

澤 俊二（金城大学，作業療法士）

山本伸一（山梨リハビリテーション病院，作業療法士）